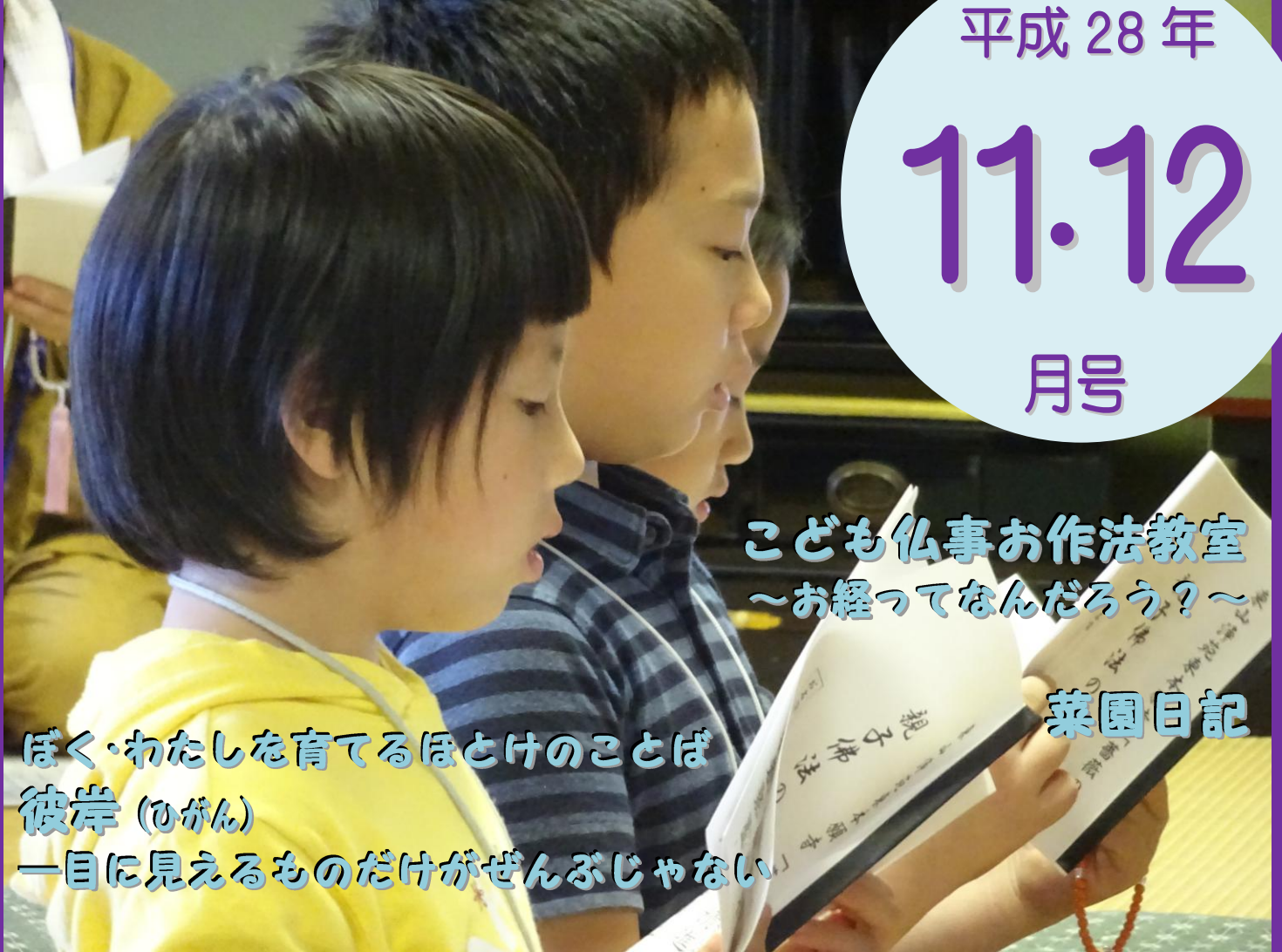


だっこだっこあみだっこ

平成 28 年

11.12

月号



こども仏事お作法教室
～お経ってなんだろう？～

菜園日記

ぼく・わたしを育てるほとけのことは
彼岸 (ひがん)
一目に見えるものだけがぜんぶじゃない

東山浄苑東本願寺発！ママと子どものフリーペーパー **だっこだっこあみだっこ** です♪

あみださまは、おかあさんの「だっこ」のように、あたたかくわたしたちをみまもって下さっている—
そのことに気づいたとき、わたしたちは安心して、自信をもって生きていけます。

未来をになう子どもたちは社会の宝もの。その子どもを育てる**子育て**は、**とても尊い大事な**
ことです。いい子になってほしい、と思いながらも、ほんとうのやさしさ、かしこ
さ、強さってなんだろう？ 悪いことをしたらどう叱ったらいいの？ —ほとけさまの教え
が、悩めるパパ、ママのともしびになりますように。 ぜひ、ご家族みなさんでお読みください♪

FREE Paper

ぼく・わたしを育てる ほとけのことば

今月のことば:「彼岸(ひがん)」 一目に見えるものだけがぜんぶじゃないー

仏教には、今のわたしたちにとって、あたたかなともしびとなることばがたくさんあります。
「ほとけのことば」から、わたしたちの日々のくらしの目標をかんがえてみましょう♪

ひがん お彼岸ってなあに？

みなさんは、「お彼岸」と聞いて、何を思い浮かべますか？
家族みなでお寺やお墓へお参りするイメージでしょうか？

「お彼岸」とは、太陽が真東から登り真西に沈む3月の春分と9月の秋分の前後3日間の計7日間のことです。西の遙か彼方にある極楽浄土と、そこにいらっしゃる阿弥陀如来さまに、感謝の気持ちをもって思いを寄せます。

特に最初の日を「彼岸入り」、真ん中の日を「お中日」、最後の日を「彼岸明け」と言います。

※春分と秋分は、昼と夜の長さがほぼ同じになる日。



見えるものにしか気づかないわたしたち=「凡夫」 ほんぶ

さて、日常のわたしたちは、無意識に、自分の目で見たこと、聞いたこと、体験したことをたよりにしてものごとを考え、判断しています。

例えば、大好きなアイドルを一人思い浮かべて下さい。テレビに移る姿だけを見て、

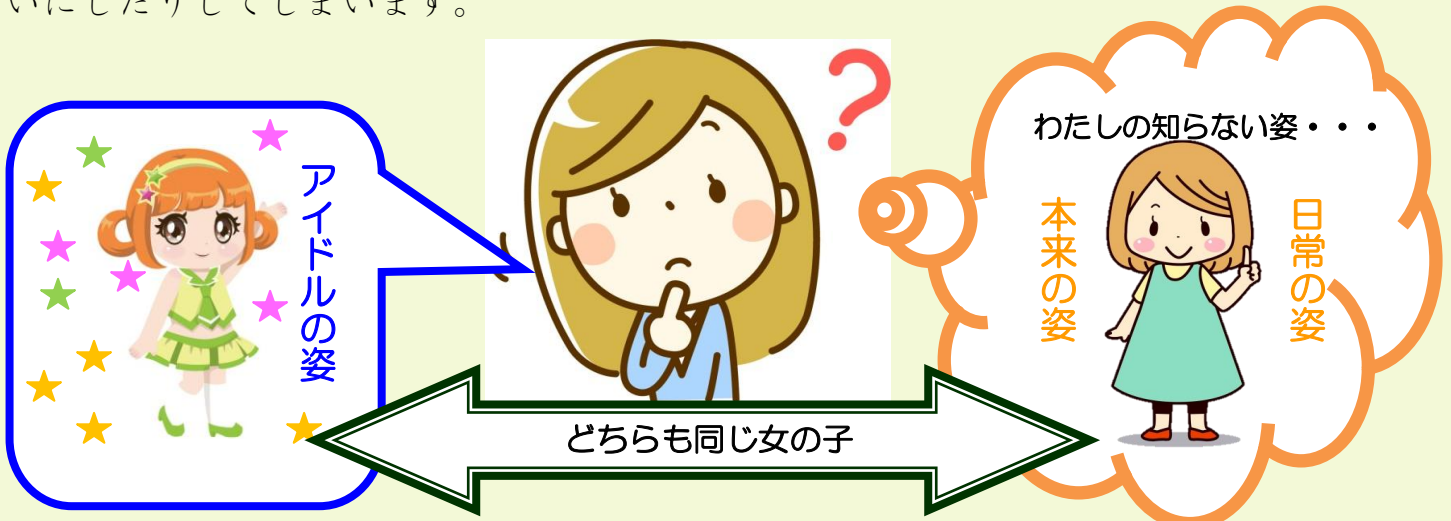
「テレビでよく面白いことを話しているから、しゃべり上手だろう」

「毎日、かわいいファッションをしているんだろうな」

など、直接会って話したこともないのにアイドルの全てを知ったつもりになってはいませんか？本来のアイドルは、おとなしく、シンプルな服を好むかもしれないのです。

これは、あなただけではありません。人間は自分で見て聞いたことだけで何となくわかったつもりになり、自分の都合のよいようにつつい思い込んでしまうものです。

「わかったつもり」は、大変厄介です。自分の価値観で、こうしなければならぬと他の人に強要をしたり、誤っていたことを指摘されても、ごまかして他の誰かのせいにしてしまします。



仏教をひらかれたお釈迦さまは、私たち凡夫は「無明」である、と見抜かれました。「無明」とは、読んで字のとおり「明かり（光）の無いこと」、「目の見えないこと」です。「わかったつもり」の自分が見えず、「自分が何も知らない」ことに気づかず、「自分が今見ているものがすべて」と思い込み、これから自分がどうなるのか見えず、悩み、苦しんでいる——このような私たちの姿を、お釈迦さまは「無明」とおっしゃったのです。

そんな暗闇の中にいる私たちに、光をさし、光でおさめとって下さるのが、阿弥陀さまです。「阿弥陀」とは、もともと「アミターブハ」、「限り無い光」という意味です。阿弥陀さまは、無限の光で、無明の闇を照らして、私たちをおさめとり、必ず救い取って捨てない、と誓って下さいました。

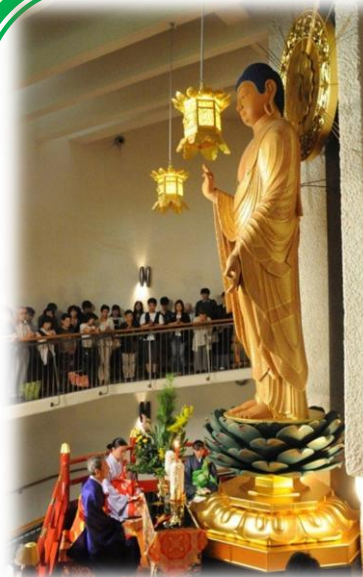
「凡夫」のわたしたちを導いてくださるもの 一目に見えない仏法との出会い

仏さまのみ教えにふれた人は、自分が、真実のわからない「凡夫」であることに気づくことができます。そして、そんな私を必ずお救い下さる阿弥陀さまに、「もったいない、ありがたい」という気持ちがわきおこってきます。そのような阿弥陀さまのおはたらきに気づき、ありがたくうれいきもちでいっぱいになったとき、わたしたちは、また自分が暗闇の中にいたことにも、もう一度気づくのです。

「彼岸」とは「彼の岸」、あちらがわの岸という意味で、極楽浄土のことです。反対に、こちらがわの岸は「此岸」といい、わたしたちが今いる、悩みや苦しみに満ちた世界のことです。「お彼岸」とは、こちら側の岸にいる私たち凡夫が、「彼の岸」にいらっしゃる阿弥陀さまのお救いとおはたらきに気づき、感謝しておつとめし、「彼の岸」に渡るご縁とする期間です。「お彼岸」以外にも、お盆や修正会など、仏教にはさまざまな年中行事がありますが、これらはすべて仏さまのおはたらきに「感謝」しておつとめするものと思って下さい。

目に見えるものだけが全部じゃない、目には見えない世界にほんとうのことがある——このことを知り、けんきょな気持ちで「ありがとう」と手をあわせること。これができる人は、きっとほんとうの「やさしさ」と「しあわせ」に包まれているのではないのでしょうか。

■東山浄苑東本願寺 年中行事■



彼岸会（春分・秋分の前夜3日間）

→ 報恩講（11/27・28）



→ 花まつり（4/29）



← 御煤払い（12/31）

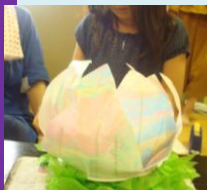


← 盂蘭盆会（8/13・16）



だっこだっこあみだっこは、毎月東山浄苑東本願寺で開催して
いる「親子仏法の集い」の活動内容をもとに編集しています♪

親子仏法の集い-仏法に親もう 土に親もう!-つてなあに?



毎月第3日曜日(行事等で変更の場合あり)に、
東山浄苑東本願寺の菜園で行っている親子向けの活動。
なんでもありがたいいただいて、粗末にしない-古きよき日本人を育てた仏教の教えです。
家族で野菜づくりや年中行事に親しみ、
「いただきます」「ありがたい」の豊かなこころを育てましょう。
乳幼児から中学生までのお子さんご家族はどなたでも参加できます。
初参加歓迎!(初回参加は無料です♪)お気軽にお尋ねくださいね。



【活動日】毎月第3日曜日 【場所】東山浄苑東本願寺

【参加費】1家族1回 1,000円 **初回参加無料!**

※ベビールーム完備 ※屋内無料駐車場完備 ※参加ご家族30組限定

★お問合せ・参加のお申込みは★

東山浄苑東本願寺 総合受付

電話 **075-541-8391** 毎日 9:00
~17:00

—参加者募集中! 今後の親子仏法の集いご案内—

来年4月に開催する花まつりに向けて、^{たんぶつげ}嘆仏偈のおつとめを練習中!



お経をはじめて聞く、読むお友達でも安心!
ご僧侶がやさしく丁寧に教えます。仏事作法も学べるよ。

平成29年4月29日(土・祝)

花まつり 申込受付中

子ども奉納会参加募集

お稚児さん募集

- 対象: 満2歳~12歳
- 定員: 限定100名
- 参加費: 6,000円

- 対象: 満4歳~12歳
- 定員: 限定30名
- 参加費: 3,000円
- 別途、右稚児行列への参加費、及び練習のため親子仏法の集いへの参加(1,000円/月)が必要です

075-541-8391 東山浄苑東本願寺

11月 活動 11月20日(日)

10:00~12:00

落ち葉拾い

^{たんぶつげ}嘆仏偈(お経)をよんでみよう

12月 活動 12月18日(日)

10:00~12:00

野菜(どの野菜を収穫するかは生育状況による)の収穫/堆肥作り

^{たんぶつげ}嘆仏偈(お経)をよんでみよう

- 場 所: 東山浄苑東本願寺内 菜園 ほか
- 参加費: 1家族1000円 ※初回参加は無料

※事前にお電話でお申込みください。

※野菜の生育状況などによって、活動内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

※雨天の場合は、お念珠づくりなど室内企画を行います!お楽しみに♪

だっこだっこあみだっこ 平成28年11・12月号

平成28年11月15日発行 発行・印刷/東山浄苑東本願寺 〒607-8461京都市山科区上山旭山町8-1 電話075-541-8391

無料